

指導者養成演劇ワークショップー手から手へコミュニケーションをつなぐー

2月6日(水)13:00~15:00 カルチャー棟 リハーサル室

[講師] 河田園子 (演出家)
[アシスタント] 木村雅子 (俳優)
[モデレーター] 酒井誠 (演劇制作アドバイザー)

○酒井氏 時間が来たので始めたいと思います。私はモデレーターの酒井と申します。経歴はパンフレットに書いてあります。

このワークショップは、指導者養成講座ですが、そんな大げさなものじゃなくて、体を動かして、演技する人、演じる人と同じ経験を踏むということは、ものすごく大切だなというのを私は過去の経験から学んだことで、始めさせていただきました。

そして中身に関しては、2人にお願しました。紹介したいと思います。

今日の講師をやっています河田園子さんです。

○河田氏 はじめまして、よろしくお願します。

○酒井氏 それと助手の木村さんです。

○木村氏 よろしくお願します。

○酒井氏 河田さんとは演出家としても何本か一緒に仕事しているんですけど、文化庁の海外研修でイギリスで学んできたことを今日表明したいということです。おとしだっけ、帰ってきたのは。

○河田氏 そうですね。

○酒井氏 1年間の研修を終えて帰ってきたばかりなんです。だから、一番新しい情報というか、新しいものをやりたいということと、彼女自身が演出家でありながら、いろいろな地域の人と密接な形で物をつくっていききたいという考えの持ち主で、それを今実践されている、静岡とかいろいろなところで実践しています。

助手をやってくれる木村さんは女優だったんですけども、今は演劇ショーとか、児童館で読み聞かせ等をやっていて、役者という仕事を生かして仕事をしていくそうです。

それでは、河田さんにバトンタッチしますので、あとお願します。

皆さんすみません、全員真ん中へ集まってください。

○河田氏 皆さんの顔が見えるような感じで円になって座っていただいてもよろしいでしょうか。

演劇のワークショップって、どういう方たちがどういう目的を持って受けるかによって内容が変わってくるものなんですけれども、今日は2時間という短い時間の中で、本当にいろいろな経験をお持ちの方々が集まっていच्छゃると思います。私としては、今日皆さんのことを「演劇って何

だろう？」「演劇やったことありません」という方々に見立てたいと思います。そして、その皆さんがどうやって演劇を通して人とのコミュニケーションを楽しんで、そこから自分ではわかっていないこと、新しい物事を知って、自分の考えが相手に伝わることの喜びやら感動やらを味わっていただき、最終的に皆さんがつながるってすごいことだなということを経験できるようなワークショップをしたいなと思っています。

いろいろなところでワークショップをやらせていただいて、やはり最初はすごく皆さん緊張して来られるんですけども、それが、あ、自分ここにいていいんだということの安心感や、何かやっていることが楽しいなと思うと、次にそこにまた来たくなる、もっと知りたくなるというふうには、自分たちでコミュニケーションの場をどんどん広げていったりとか、深くしていく、強くしていくというような様子を見てきています。ぜひ今日は皆さんの体を通して、心を通してコミュニケーションというものを感じていただいて、お持ち帰りいただけたらなというふうに思っていますので、ぜひ積極的に参加してください。

日本人としては能動的にとか、積極的にという言葉を知ると、ちょっと引け目を感じるころがあるかもしれませんが、今回はそこら辺をぜひ実践していただきたいなというふうに思っています。

2時間皆さんのご協力が必要になりますのでよろしくお願いします。

○全員 よろしくをお願いします。

○河田氏 では、まず、皆さんでこの空間を自由に歩き回ってみてください。ふだんの自分の歩き方で大丈夫ですので、自由に歩き回ってみてください。適当に音楽流します。

そして、今から時間を決めますが、すれ違った人と目を合わせて、それから握手をして、それからご自分の出身の県、お名前、そして好きな食べ物のこの3つの情報を交換してください。アイコンタクト、握手、情報交換という形を7人の方とやってください。3分以内です。どうぞ。

(全員で自己紹介)

○河田氏 皆さん1人と長々喋っている時間ないですからね。多くの方と関わってくださいね。

あと1分半です。あと30秒です。7人と関わってくださいね。あと15秒です。

5、4、3、2、1、はい、ストップです。1回座ってください。

7人のことを新しく知れた方、手を挙げてください。結構結構、結構いきましたね。

どうですか、覚えていますか。7人の方の名前。多分顔と好きな食べ物とかは、もしかしたら残っているかもしれませんが、印象に。これ名前とどこの県から来ましたというのは、皆さんの肩書なのでいいと思うんですけども、好きな食べ物というのは、必ずオリジナリティーが出るじゃないですか。本当に個人のものなので、そこで、あ、私も好きですということとか、人によっては嫌いな食べ物以外は全部好きですみたいな内容は、言い方にも個性が出たりしますし、もしかしたら食

べ物によってその人の環境みたいなものも想像できるかもしれないので、相手とのコミュニケーションが一步近づくとというような意味合いでは、すごくいい自己紹介の仕方だと思います、ぜひお待ちしております。

それでは、次に、誕生日順に並べかえるというのをやりたいと思います。

こちら舞台側が1月、向こうの壁が12月、1分半以内にこちらから向こうまで誕生日順に並びますが、言葉なしです。声出しちゃいけません。どうすればいいでしょうか、声を出さずに順番に並びます。同じ誕生日の人だったら縦に並んでいただいてもいいんですが、そうじゃなかったら、必ず横に順番に並んでくださいね。あとで答え合わせしますからね。

○参加者 日にちも関係あるということですか。

○河田氏 関係あります。はい。順番に並びかえてください。

いいですか皆さん、用意スタート。

(声を出さずに誕生日順に整列)

○河田氏 はい、一列になりました。では、皆さん今時間内に並べました。まず、それすばらしいです。

これが合っているかどうかが問題ですね。これ答え合わせをします。こちら(1月)からボールを回していきますので、自分の誕生日を言って次の人に回して行ってください。よろしいですか、これ間違えたたんボールが時限爆弾に変わって爆発しますからね。

45秒以内にしましょうか、45秒以内に1月から12月までボールを回します。

用意スタート。

○参加者 1月4日、1月12日、1月20日、2月18日、3月6日、3月19日、3月30日、4月11日、4月16日、4月15日、

○河田氏 おおー

○参加者 (どよめき)

○参加者 4月30日、6月29日、7月1日、7月12日、7月24日、8月3日、8月23日、9月2日、9月3日、9月8日、9月10日、9月18日、10月2日、10月12日、10月23日、10月30日、11月17日、12月6日、12月8日、12月18日、12月20日、12月20日、12月30日、12月31日。

(拍手)

12月20日、いっぱいいますね。4月15日と16日。もう一つのコミュニケーションですね。でも、皆さんすばらしいです。(拍手)

それでは、すごくいい感じなので、もう1回アルファベット順に並べ替えたいと思います。アルファベット順です。名字ですね。名字が赤坂というんだったら、AKA、秋葉と言うんだったAKIなので赤坂さんのほうが前に並ぶというふうに、結構これめんどくさいです。

頭を回転させてくださいね。これはさすがに喋っていいです。これは声を出して大丈夫ですので、こちらからA、後ろがZで1分以内に並べかえます。よろしいですか。

用意スタート。

(アルファベット順に並べかえ)

○河田氏 ストップ。どうですかね。今の答え合わせをします。

○参加者 私が間違っているわ。

○河田氏 もう既に間違えた。これ難しいかもしれないので。答え合わせを1分以内にいきます。

○全員 A I Z A W A、A O K I、間違えました、O K A M O T Oです。

○河田氏 あー、O K A M O T Oさん！だいぶ向こう。

○全員 H A S E G A W Aです。H I K I N O

○河田氏 もうH来てますよ。

○全員 H I T O M I、I C H I K A W Aです。I S H I D Aです。I T Oです。K A K I M O T Oです。K A T S U T Aです。K I N O S H I T Aです。M A E D Aです。M I Y A M O T Oです。M O R I T Aです。N A K A H A R Aです。O S H I M Aです。O Z A W Aです。S A I T Oです。S A K A Iです。S A S A K Iです。S H I M A D Aです。S U E T A K Eです。T A H A R Aです。T A N A K Aです。T A N A K Aです。T O Y O K A W Aです。U R U S I B A R Aです。Y A M A D Aです。Y O N E N Oです。Y O S H I O K A。Y O S H I N Oです。W A T A N A B E T A K A Y U K Iです。W A T A N A B E H I R O S H Iです。

○河田氏 Y O S H I N OさんとY O S H I O K Aさん、Y O S H I N OだとNとOで、Y O S H I N Oさんが先ですね。あと、「O」。

○O K A M O T O氏 根本的に違いますね。(参加者一同笑い)

○河田氏 すごいですね。ローマ字のアイウエオだとそちらになりますけれども。ちょっとこれ頭の活性化にもなりますからね。

隣の方とアルファベットでも並ぶと、あ、お互いにこういう名字なのねということでもコミュニケーションがまたとれるようになると思います。

それでは、どうしようかな、7チームつくりたいと思いますので、1、2、3、4、5、6、7で順番で数言ってもらっていいですか。(1列になっているので左から番号を言っていく)

○全員 1、2、3、4、5、6、7、1、2、3、4、5、6、7、1、2、3、4、5、6、7、1、2、3、4、5、6、7、1、2。

○河田氏 ありがとうございます。

そしたら、1の人、2の人、3の人、4の人、5の人、6の人、7の人というふうにチームを組

んでいってください。

1 同士でグループ、2 同士でグループです。

そしたら、チームでこちら側にちょっとぎゅっとまとまっていた方がいいですか。

これからやるのはジェスチャーゲームです。いろいろなところでやられているジェスチャーゲームだと思うんですが、結構演劇の根本だったりします、ジェスチャーゲーム。ここ(持っている紙を示し)に書かれているお題が、演劇でよく使う台本だとしまして、そこから自分で判断し、解釈します。それから自分のイメージをもって自分の体でそれを表現して、それを客さんに伝えるというこのプロセスなので、これは全く演劇になるんですね。

今は、単純に皆さんここに書いてあるものをチームの人に伝えて、正解を求めるというふうなことで構いませんが、今回、ジェスチャーゲームなので言葉で説明してはダメなのですが、ジバリッシュというでたらめ語はあります。(ジバリッシュ語=○▽×▲* \$)

そして、このお題の中に2人とか3人と書いてあるものもあるので、「2人」と書いてあったら、紙を引いた人がチームメイトを呼んで、2人でお題を見てやってみてください、よろしいでしょうか。

何かお手本見せましょうか。例えばジバリッシュのお手本です。皆さん当ててください。いきま

(河田氏と木村氏によるジェスチャーゲーム実演)

○参加者 駅伝？

○河田氏 そう。こういうのを皆さんとやりたいと思います。

5分以内に何枚できるかの競争です。もしこのお題無理ということがわかったら、パスしていただいて大丈夫です。パスしたものは元の箱に入れてください。当たったものは、開いてこちらのほうに入れてください。

では、皆さん順番を決めてもらっていいですか。

○参加者 当ててもらうのは、次の人に当ててもらうんですか。

○河田氏 いいえ、チーム全員です。当てるのはチーム全員で当ててください。

いいでしょうか、トップバッターの方。こちら辺ですかね、こちらをステージにしてやってもらってください。

よろしいでしょうか。

○全員 はい。

○河田氏 では、用意スタート。

(ジェスチャーゲーム盛り上がる)

○河田氏 ストップ。そこまで。

何枚当たったかを数えてもらっていいですか、結構ありますね。

○参加者 酒を飲む猿だって。

○参加者 難しい。

○河田氏 皆さん、数え終わりましたか。では、こちらのチームが。

○参加者 8枚。

○参加者 13。

○参加者 9。

○参加者 9。

○参加者 11。

○参加者 9。

○参加者 7。

○河田氏 すごい。13枚が最高ですね。（拍手）

でも、皆さんパスしてなかったですね。何としてでもこれを伝えよう、何としてもわかってやろうというエネルギーがすごいヒートアップしていました。何でもありみたいな。

お題を必死に何とかわかってほしいという動きと、見ているほうもすごいっばいイメージするじゃないですか、この人何を伝えたいんだろう、この手の動きは何なんだろうというように。あ、ここまでわかってくれたら、もうちょっとこれもわかってほしいというふうに、お互いに理解の幅を広げていって答えにたどりついていくという非常に美しい今芸術が、プロセスが見えた気がしましたね。

ジェスチャーゲームなんですけれども、幾らでもアーティステックにできるということなんですよ。

これ誰でも宴会とかでもやっているような芸なので、演劇という何か固いとか、壁が高いということがなく簡単にできましたよね。これが演劇だよと言われてたら、あ、私もう演劇できているじゃんというふうになれると思うんですね。

単純にこのお題に台本が入ってきて、ちょっとセリフが入ってきてというぐらいなプロセスとして考えていただけるといいかなというふうに思います。

それで、皆さん、ここからちょっとストーリーづくりをしたいと思います。

ちょうど7チームに分かれていますので、この7チームでいきましょう。どういうストーリーづくりにしようかなということ考えたんですが、今回は皆さんがよく知っている物語を、現代的に置きかえてみるというふうにチャレンジしてみたいと思います。

題材は「桃太郎」。大丈夫ですか、「桃太郎」知らない方いますか。大丈夫ですね。すごく単純に言うと、鬼退治に行って、鬼から宝物を取り返す、みんな幸せになるというお話です。

これもチームに分かれてストーリーをつけていきたいと思うのですが、まずは、桃太郎の旅立ちのシーンからいきます。そして次に犬に出会います。そして次が猿、次にキジとの出会い、そして今回は鬼ヶ島の鬼たちのシーンをつくります。次に桃太郎たちが鬼ヶ島に行くところ、そして最後が、対決するところという7つのシーンからお話をつくっていききたいと思います。

ルールを幾つか決めたいと思います。まず、全員行動すること。登場人物は必ずみんなに振ってください。そしてせりふを15個か20個つくってください。そして必ず「鬼ヶ島」というキーワードを入れてください。

例えば、旅立ちのシーンを現代版に置きかえてやりますとなったときに、桃太郎便でバイトをしている桃太郎君が、余りにもバイト料が安いとか、もうパワハラもひどいしというようなことで、バイトの代表して本社に訴えに行くというようなことが旅立ち、ぐらいに現代版に置きかえます。

例えば、このように桃太郎便でバイトをしている桃太郎君のお話を一番最初のチームがつくったとします。そうすると、2番目で犬と桃太郎が出会うシーンを考えている人たちは、もしかしたら学校のモンスターペアレンツのPTAに訴えに行く桃太郎君を主人公にシーンをつくっているかもしれません。そこに犬にあたる若手の先生が私も一緒に頑張っついていけますって言って、これが桃太郎と犬の出会いというようなことにしていいです。各シーン、シーンで目的としている鬼が違って大丈夫です。鬼ヶ島の鬼をやるシーンの人たちも、俺たち何の鬼にするということから、全く前のこととかは関係なく考えていただいて大丈夫です。

なので、これらに共通するものは「鬼ヶ島」というキーワードと、あと桃太郎役の方は「桃太郎」という名前をずっと継承して行ってほしいと思います。よろしいでしょうか。共通するのは、主役は「桃太郎」という人が鬼ヶ島に何かを退治に行くという話です。

15から20個のせりふなんですが、ドラマをつくる、ストーリーをつくる時にスムーズにいつてしまったら、全然ドラマにならないんですね。何がドラマになるかということ、やはり対立ですね、何かしら行こうという人に対して行きたくないという人がいるとか、俺も行きたいという人がいて、どちらがいくかという対立関係になってくるとか。これはルールというか、入れたほうがいいかもねということです。これはちょっとしたアドバイスです。

皆さんに今お配りしました模造紙にいろいろなアイデアを書いていただいて、最終的に15個から20個のせりふを各登場人物で割って、シーンをつくってもらおうというふうなことをしたいと思いますが、大丈夫でしょうか。

○参加者 大丈夫じゃないです。7つのグループは7つ、今意味があるんですか、その7つのグループって。

○河田氏 そうです。今、皆さんこれ7つになっていますね。先ほどのジェスチャーゲームのいい点数だったところからシーンを皆さんに決めていきたいと思います。

よろしいでしょうか。

何かつくり方に関してちょっとよくわからないんですというようなことをシェアしたいと思います。

○参加者 1つ1つのグループが全部最初の旅立ちから最後の対決までつくるんですか。

○河田氏 ううん。

○参加者 部分部分ですか。

○河田氏 そう、ここのシーンだけ。

○参加者 あ、はい。わかりました。

○河田氏 なので、多分3分ぐらいだと思います、シーンとしては。

○参加者 それぞれ仲間になる以降のエピソードは、登場人物に犬、猿、キジをどんどん加えていく必要がありますか。

○河田氏 そうですね。それ加えてっていただいていた方がいいですかね。

なので、まず3なら(桃太郎と犬の出会いのシーン)、犬が3匹ぐらいいるかもしれないです。でも、ここ(桃太郎とキジの出会いのシーン)に来たら犬1匹になっていて全然大丈夫です。必ず仲間の犬、猿、キジは一緒に鬼ヶ島に行った方がいいですね。はい、ありがとうございます。

○参加者 これは、最後はどういう発表するんですか、何か演じるんですか。

○河田氏 そうです。ですから、舞台でお客さんがいて見て、あ、何か皆さんすごい作品できましたねと言われるような発表を2時20分ぐらいからやりたいなと思ってます。

○参加者 理想が高いから。

○河田氏 どうでしょうか。

○参加者 鬼ヶ島の鬼たちのシーンにも桃太郎、犬、猿、キジはもういますか。

○河田氏 これはいなくて大丈夫です。これは鬼たちの生活で大丈夫です。

ほか大丈夫でしょうか。

○参加者 これは最後の終わりは自分たちが決めていいということですか、対決というワードを入れれば、旅立ちから始まって最後は自分たちで決める。

○河田氏 そうですね、例えばキジというシーンをつくるときに、何を一番最後にするかというと、桃太郎とここまでの仲間とキジが一緒になったね、では、次に行こうかというふうに、なるべく次につなげていくところを終わりに持って来ていただいたほうが物語としてはスムーズですね。

すごくいいことを言っていただきました。各チームで1つのエピソードをつくっていただきたい

んですが、次につなげていっていただくような形で、途中の方々が物語を終えていただくといいですね。大丈夫ですか。

○参加者 大丈夫じゃない！（笑い）

○河田氏 そのチームで大丈夫にしてください。（笑い）

○参加者 とりあえずどこのストーリーにするかを選んでもらったほうがまだ進むかもしれない。

○河田氏 そうですね、では、実際に1番だったところから。どこがいいかな、決めてくださいね。ちょっと9のところは何チームかあるのでじゃんけんしてもらってくださいね。

9はここのお三方じゃんけんで。

○河田氏 じゃあ11。

○参加者 旅立ち。

○河田氏 そして、

○参加者 じゃあ犬で。

○河田氏 犬で。

○参加者 対決で。

○河田氏 どこいきましょう。

○参加者 鬼ヶ島へ。

○河田氏 ということは、猿とキジが。

○参加者 猿をお願いします。

○河田氏 そしてキジ。

では、皆さん、これでこのルールにのっとって、ご自分たちで人物とせりふのやりとりを考えて、ストーリーがどう進行していくかを考えていただいていたいいですか。

現代に置きかえた「桃太郎」です。

では、シンキングタイムです。どんどん絵にかいちゃってください。

（物語からシーンを創作）

○河田氏 皆さん、時間になりましたので、今できているところまででせりふをつくってください。

○参加者 覚えるの？

○河田氏 大丈夫です。大丈夫です。

一番最初のチームのところにみんなで行って見ます。観客移動型です。

一番最初のチーム、こちらです。

桃太郎さん役の方は、このプレートをボタンタッチしてってください。

では、「旅立ち」からですが、各チームで場所の設定だけ教えてください。もしせりふでわかる

場合は大丈夫なんですが。

○参加者 最初は給湯室です。その後、場所が変わりますが、それは何となくわかります。

○河田氏 はい、わかりました。

では、桃太郎がどういうふうの旅立っていくかというシーンです。どうぞ。

(実演シーン1)

○参加者1 疲れたね、今日は仕事。

○参加者2 ねえ、今日帰れるかな。

○参加者1 早く帰りたいよね。

○桃太郎役 お疲れ。

○参加者2 お疲れさまです。

○参加者1 お疲れさまです。

○桃太郎役 あのさ、今日さ、ちょっと残業頼みたいことあるんだけどさ、2人どう？

○参加者1 実は、今日婚活パーティーがあって、社長と医者と弁護士限定なんです。

○桃太郎役 ええ、そんな……。

○参加者2 入会金50万円なんですけど、成婚率95%なんです。

○桃太郎役 95%、それマジ。マジすごいじゃん。

わかった、じゃ、仕事はさ、私やっとくからさ、2人ちょっと頑張っ、楽しんで来てね。

○参加者1 ありがとうございます。

○桃太郎役 じゃ。

○参加者2 行ってきます。

(ここから設定は婚活パーティーの場に)

○参加者3 おはようございます。

○参加者4 おはよう。何、この間失敗してたよね。

○参加者3 ああ、すみません。

○参加者4 何しているの。

○参加者3 いやいや、すみません。今日頑張ります。

○参加者4 いつも今日って。

○参加者3 わかりました。

(参加者1と参加者4がパーティーの手続き)

○参加者1 こんにちは。

○参加者4 こんにちは。

株式会社鬼ヶ島のヨシオカと申します。よろしくお願ひします。

○参加者1 お願ひします。

○参加者4 今日は、医者も弁護士も社長もいっぱい来てるからね、絶対勝って帰ってください。

では、早速ですけれども、入会金50万円いただきます。ありがとうございます。

では、あなたはこちらに座って待っててください。

あなたは、こちらの部屋に待っててくださいね。頑張ってくださいね。

(参加者1と参加者3のお見合い)

○経営者役(参加者3) 失礼します。おや、モデルさんなんですか。お美しい方で、はじめまして。

私、六本木でIT企業経営しております、年収が4億3,000万円ほどあるんですが、年も年で独りもんなものですから、そろそろ身を固めようかと思っております、こちらに来た次第なんですが、お嬢さんにご結婚を考えられていますか？

○参加者1 はい。

○経営者役 ああ、そうですか。いやあ、こんな機会めったにないので。また今後ともよろしくお願ひいたします。

ちょっと失礼いたします。申しわけないです。すみません。失礼します。

(参加者2と参加者3のお見合い)

○医者役(参加者3) こんにちは。どうもこんにちは。高校生じゃないですよ。私、世田谷のほうで小児科をして、子どもなんかの面倒をずっと見たりしていますと、子どもが欲しいなんて思ひましてね。それで年収が1億円ちょっとあるんですが、早く子どもが欲しいもんですからね、ここへ来た次第なんですが、お嬢さん、ご結婚まだ早いですよね。

○参加者2 いえ、そんなことはないです。

○医者役 ああ、そうですか。本当、この機会によろしくお願ひいたします。

またご連絡をさせていただきますので、どうも失礼します。

(見合い後の参加者1と2)

○参加者1 どうだった？

○参加者2 なんか小児科の先生と言った。

○参加者1 なんか六本木の社長とか言った。

○参加者2 結構…。

○参加者(ナレーション) 1週間後

○桃太郎役 ちょっと、ちょっと2人、先週どうだった？あの例のパーティー？

○参加者1 連絡がなくなって……

○参加者2 私も急に連絡とれなくなって……。

○桃太郎 何、何、ちょっとさ、最近こういう結婚詐欺ってあるらしいのよ。

○参加者2 あ、この人、小児科。

○参加者1 この人、六本木のIT社長と言っていましたよ。

○参加者2 いやいや。

○参加者1 いやいや。

○桃太郎役 ええ、何これ、株式会社鬼ヶ島もしかして。あなたたち行ったの。

○参加者1 そうです、そうです。

○桃太郎役 お金は、払っちゃったの。

○参加者2 50万円払っちゃいました。

○桃太郎役 50万円。ちょっと信じられない。ここにも被害者続出して書いてあるじゃない。許せない。
私、こいつとっちめてやるわ。

○参加者1 お願いします。

○桃太郎役 行ってくるわ。

○参加者2 課長、給湯室に東京ばななあったので持って行ってください。

(拍手)

○河田氏 ありがとうございます。

次のチームはここら辺ですかね。では、犬との出会いです。

(実演シーン2)

○参加者3 場所は、都内某所にある弁護士事務所です。

途中回想シーンも入りますので、それはご想像にお任せします。

○桃太郎役 コンコン。こんにちは。

○イヌ役 こんにちは。

イヌジマワンダフル事務所へようこそ、弁護士のイヌです。

○桃太郎役 よろしくをお願いします。いっぱい弁護士の方働いているんですね。よろしくをお願いします。

○イヌ役 今日はどういうご用件ですか。

○桃太郎役 はい、鬼ヶ島自動車の桃太郎と申します。よろしくをお願いします。

実は弊社の会長が不正をしている疑いがありまして、

○イヌ役 不正？

○会長役 鬼ヶ島自動車の会長のオニオス・ボーンだけど、僕の給料すごくすごく安く申告しておいてって
言ったけれども大丈夫だよ。

○参加者3 やってると思います。

○会長役 大丈夫だよ、頼むよ。

○参加者3 はい。

○桃太郎役 どうやら給料を不正に少なく申請しているみたいなんですね。僕はすごい低賃金で働いているのに、あんなに給料もらって、しかも税金を払わないっていうのは許せないって。

○イヌ役 そうですね。それは大企業で大きな問題ですね。ぜひ私どもで取り組みたいと思います。

○桃太郎役 僕、新入社員で給料がめちゃくちゃ安いんで、お支払いできるのがきびだんごしかないんです。

○イヌ役 きびだんご……。きびだんご……。なしです！

○参加者3 だんごごときで私たち動きません。

○参加者4 そうだよ、そうそう、ねえ。きびだんごじゃちょっと受けられない。なしですね。

○参加者3 これは社会的な正義をちゃんと勝ち取らなければならないんじゃないか、大きな問題ですよ。取り組まなければならないことだと思います。

○桃太郎役 僕は、この後どうしたらいいんでしょうか。

○参加者3 では、まず、頼りになる証人の猿とキジを捕まえに行こう。

○参加者4 それなら行けるかもしれない。キジと猿の証人を探しに行きましょう。

○桃太郎役 わかりました。

○参加者3 こうして桃太郎は猿とキジを探しに行きました。

(拍手)

○河田氏 そして、では、猿との出会いです。

(実演シーン3)

○参加者5 株式会社鬼ヶ島で社長と専務が悪知恵をしまして、経理のほうを実際ちょっと豪遊してしまつて、そのお金をこちらの経理の方にお渡しして発覚してしまうような流れです。

○参加者6 株式会社鬼ヶ島印刷です。

○参加者7 これ、きのうちょっと行ったやつだから、いつものやつといてくれる。

○サイトウ役 あ、きのう行ったやつですよ、領収書ね。いつものように、経理に出して経費で落とします。

○参加者7 きんのう行ったキャバクラだけど、キャバクラへ行くのは俺たちが行くのは、若い女性の社会進出の自立のためにお金を使うんだから、世のため人のためにやっているんだから。

○サイトウ役 それはそうですよ。金は天下の回り物といいましてね、お金は使うためにあるんですよ。

○参加者7 経理に行ってきます。

○参加者6 サイトウ、お前も悪よの。

○サトル役 これ経費で落とすといて。

○サルタ役 50万円。桃太郎さん見てください、キャバクラ代ですよ。

○桃太郎 キャバクラで50万円。俺の月給300円なのに。差別だ。これ本当に経費で落とすんですか。

○サルタ役 私だって仕事失いたくないし……。

○参加者8 こんな入れちゃだめですよ。いつまでもあの2人の言いなりになるなんて。

○桃太郎役 サルタさん、あなたが持っている不正書類があれば、我々はその不正を暴くことができる。

○サルタ役 でも、私だって協力したいけど、でも、1人の力じゃ無理です。

○桃太郎役 確かにサルタさんだけじゃ足りない。カメラを見ている警備員のキジシマ君にも助けを求めよう。みんな行こう。

○参加者8 行きましょう。

(拍手)

○河田氏 猿が仲間に加わりましたね。そして次、キジとの出会いです。このあたりですね。

(実演シーン4)

○桃太郎役 場所は、都内某所スタジオです。音楽スタジオ。

○河田氏 はい、どうぞ。

○桃太郎役 やっぱ、この時代な、天下をとるのはバンドしかないわ。

○参加者9 そう、そう。

○桃太郎 犬のベースは最高やし、

○参加者10 ありがとう。

○桃太郎役 猿のダンスとドラムも最高やし、完璧や。なあ。

○参加者11 いやいや、桃太郎さんもすばらしいですよ。さすがですよ。

○桃太郎役 ありがとう、ありがとう。

○参加者12 プロデュース能力も最高だし。

○桃太郎役 ありがとう、ありがとう。でもな、足りひんもんあるんねん。

○参加者11 え。

○桃太郎役 ギターおらへん。

○参加者 ええ。

○桃太郎役 誰かいい知り合いおらへんの。ギタリストで。

○参加者10 私はわからないな。

○参加者12 僕もわからないです。

○桃太郎役 犬、誰かおらへんの。

- 犬役 知り合いにいますけれども、ただ、すごいプライドが高くて、すごい性格が悪くて、すごいツンデレで、ほんとしようがなくで面倒くさいやつなんですよ。
- 桃太郎役 面倒くさいな。
- 参加者9 どうするの。
- 犬役 ただ、私たち赤みがないじゃないですか。
- 桃太郎役 せやな、色が地味やしな。
- 犬役 キジちょっと派手やないですか、やはりキジいるんじゃないですか。
- 桃太郎役 せやな、天下とるなら華やかさ必要やし、ちょっと面倒くさいけど、そいつじゃスカウトしないこう。
- 参加者10 わかりました。ついていきます。
- 桃太郎役 面倒くさいと言ってたけど、ちょっと何か……。
- 参加者11 持ち上げたらいいのかな。
- 犬役 キャーキャー言っとったらいんです。
- 桃太郎役 キャーキャー言っとったらいい。
スカウト行こうか。スカウト行きます。
- 参加者9 こんにちは。
- キジ役 こんにちは。何か用か。
- 桃太郎役 桃太郎といいます。
- 参加者10・11 犬と猿です。
- 桃太郎役 バンド組んで、ちょっとギタリスト探しているんですけども、すっごいうまいって聞いたからぜひぜひうちのバンドに入ってほしいと思って。
- キジ役 俺がお前らのバンドに。
- 桃太郎役 ぜひ入って、ね。
- 参加者12 映画も流行っているし、映画も流行っているし。
- 参加者11 バンド、バンド、やはりバンドでしょう。
- キジ役 入るのは構わんがな、ただ、俺に本気の演奏をさせたければ、お前ら必死についてこいよ。
- 参加者10 ついていく。ついていく。
- キジ役 よし、じゃ、お前らのバンドに入ったるわ。
- 参加者9 ありがとうございます。
- キジ役 そしたらあれか、ライバルバンドとかはあるのか。
- 桃太郎役 目標は特にないんだけど、やはり日本で一番、世界で一番にはなりたいよね。

○キジ役 そうすると、あれだな、鬼ヶ島にある稲光バンド、あれを倒さないと天下はとることができねえだろう。

○桃太郎役 そやね、うん、確かに。

○参加者 1 1 じゃ、行っちゃいます？

○参加者 1 2 とりあえず。

○参加者 9 そいつら倒さな天下とれへん。

○桃太郎役 バンドで天下とれへんですかね、鬼ヶ島行かんと。

○参加者 1 2 そうだな。

○桃太郎 そうか。

○参加者 1 1 じゃ、行っちゃう。

○参加者 1 0 行くしかないですよ。

○桃太郎役 じゃ、鬼ヶ島行くか！

○参加者 行きましょう！

(拍手)

○河田氏 天下をとるために桃太郎たちが出発しました。一方、鬼ヶ島では。

(実演シーン 5)

○参加者 1 3 設定は鬼ヶ島のいわゆる市役所みたいなもの。鬼ヶ島の再開発の議論をしているというところから始まります。

○河田氏 はい、どうぞ。

○参加者 1 3 それでは、第 53 回鬼ヶ島テーマパーク開発会議を始めます。

前回の会議の進捗報告からさせていただきます。

一応この鬼ヶ島にも少子高齢化問題がありまして、その問題に対してちょっと……

○鬼役 話が長くなる。

○参加者 1 4 前回の会議のところで、いわゆる少子高齢化問題に対して観光を取り上げて、ぜひこの鬼ヶ島で観光を取り上げてこの問題を解決して……

○鬼役 おお、いいんじゃない。

○参加者 1 4 自己紹介からお願いします。

子育て支援課の島田さんです。

○鬼役 紹介はわしからじゃないのか。

○参加者 1 4 申しわけありません。

まちづくり課のナカハラさんです。

- 参加者 15 お願いします。
- 参加者 14 子育て支援課担当さんのほうから提案があるそうなのでお願いします。
- 参加者 16 子育て支援課です。もう戦いの時代は終わりました。これからは平和なファッションの時代です。鬼ヶ島を都会的な観光地にもするためにも、パリコレならぬ親子でオニコレ、これが。
- 参加者 14 いい提案をいただきました。
まちづくり課としてはどうですか。
- 参加者 15 そうなんです。まちづくり課としても、中央に一応大通りがあるじゃないですか、あそこが閑散としちゃっているんで、ぜひそこでオニコレやりたいと思います。
- 参加者 14 多くの人に来て盛り上がりますので、いい提案をいただきました。
- 参加者 16 大道路が活性化すれば、新しいファッションのお店がどんどん建って……
- 鬼役 いいね。
- 参加者 15 親子で来てもらったらね。
- 参加者 14 パリのシャンゼリゼ通りみたいにしたいですね。
- 参加者 17 使っていない金棒とかあるじゃないですか、あれをまたイヤリングとか、そういう
- 参加者 16 リサイクルいいね。
- 参加者 15 意外と使えます。
- 鬼役 ちょっと待て！チャラチャラした話ばりしやがって、わしらが築いた中央大通りの名前を勝手に変えるとはどういうことだ！オニコレって何だ、お前。オニコレって何だ。よくわからないんだ。よくわからない。
- 桃太郎役 パリコレにちなんでオニコレですよ。いい提案をいただきました。
- 鬼役 ファッションって何だ。鬼のパンツか。鬼のパンツのことか。
- 参加者 14 若い人にいい提案をいただいたんですよ。ぜひ。
- 鬼役 チャラチャラしているよ。
- 参加者 15 参考で呼びましょうよ。このまま人が来なければ少子高齢化で。
- 鬼役 人が来ているじゃないか。
- 参加者 16 来てないですよ。
- 参加者 17 全然。
- 参加者 14 電話なんで静かにしてもらっていいですか。
- 鬼役 電話はどこにある。会議中だ。
- 参加者 14 ちょっと静かにしてもらっていいですか。
もしもし、はいはい、何、何かが鬼ヶ島に来ている。誰？何太郎？ピコ太郎？桃太郎。帰っても

らって。じゃ。

○鬼役 どういうことだ。

(拍手)

○河田氏 電話が入りましたね。一方、その桃太郎たちはというのが、こちらですね。

(実演シーン6)

○参加者18 状況としては、仲間がいて、どこか旅行に行こうかというところです。

○河田氏 はい。

○参加者19 最近さ、鬼ヶ島というリゾートパークできたらしいよね。

○参加者20 行こう。

○参加者21 行こう、行こう。

○参加者22 どこや。

○参加者19 ユーチューブでも大人気ですよ。

○参加者22 セヤからどこや。

○参加者21 場所は、函館にあるんだよね。

○参加者20 函館って寒いし、ラーメン食べに行こう。

○参加者19 鬼を倒しにいくテーマパークだよ。

○参加者22 それ、わし鬼は2月3日に倒したんだよ。

○参加者19 そういふんじゃなくて、テーマパークというのは、大きいのか小さいのか、カラフルな鬼がいっぱいいるんだよ。

○参加者20 美人の鬼もいるんだよ。

○参加者21 ディズニーランドより楽しいよ。

○参加者20 楽しい。

○参加者19 鬼を倒すアトラクションが快感でさ。

○参加者21 やはり電車でゆっくり景色見ながら行こうよ。

○参加者20 うん。

○キジ役 わしは翼があるさかい飛んでいくぞ。

○犬 役 わしも犬だから、高いところはちょっと苦手です。

○参加者19 そうだよ、電車のほうが景色も見えるし、お弁当をみんなで食べると楽しいじゃん。

○参加者22 そうやな、運賃も安いし、じゃ、やっぱり電車で行こうか。

○参加者21 うん。

○キジ役 きびだんごならぬずんだもちもおまけにつけて、わし乗っけたるわ。

- 参加者 1 9 えっ、乗せてくれるの。
- 参加者 2 2 キジ頼むわ、みんなで乗っけとう。
- 参加者 2 1 行こう。
- 河田氏 キジに乗っかって飛びました。

(拍手)

○河田氏 そして最後です。鬼ヶ島の桃太郎、どんな最終回、迎えますでしょうか。場所としては。要らなくても大丈夫です。

- 参加者 2 3 じゃあ想像で。
- 河田氏 では、最終場面です。どうぞ。

(実演シーン 7)

- 桃太郎役 今日は判決の日。あの事件があって職を失い、家族を失い、もう僕には何も残っていない。もうそんな辛い日も今日で終わりだ。敏腕弁護人を連れて来たぞ。
- 弁護士役 桃太郎さん、今日で長い戦いも終わりですよ、絶対無罪勝ち取りましょう。
- 桃太郎役 ありがとうございます。
- サル役 それでは、新しい証人キジコさん入廷してください。
- キジコ役 私は、あの日桃太郎さんとあの人とそれと私が同じ電車に乗っていたんです。私見たんです。桃太郎さんがスマホ片手にきびだんごを食べていたところを。
- 鬼ヶ島役 そんなうそです。私、さわられました。
- サル役 鬼ヶ島さん、静粛に。
- キジコ役 さわっていません。私はあのとき桃太郎が食べていたきびだんごの粉が、私の高い羽毛のコートにかかったの。それを私は我慢しましたよ。
- 鬼ヶ島役 だから、見ていないです、絶対うそです。あなたがうそをついています。
- サル役 鬼ヶ島さん、静粛に。
- 鬼ヶ島役 うるさい、猿、きー。あんたたち桃太郎たちの仲間なんでしょう
- サル役 鬼ヶ島さん、もう一度実際にどこをさわられたか、ご説明していただけますか。
- 鬼ヶ島役 だから、私の左のお尻をあいつが……
- 弁護士役 あれ、左？ 鬼ヶ島さん、前回の証言では、右のお尻とおっしゃっていませんでしたか。裁判長、ごらんのとおり鬼ヶ島さんは違う証言をしておられます。これは完全に無罪ではないでしょうか。
- サル役 それでは、判決を言い渡します。この裁判、桃太郎さんは無罪です。
- 桃太郎役 ありがとうございます。無罪を勝ち取ることができました。

○キジコ役 よかったわ。（拍手）

○河田氏 こうして桃太郎たちは金銀財宝を取り上げて村へ帰り、お宝を村人たちに分け与えて、おじいさんとおばあさんといつまでも仲良く暮らしました。めでたしめでたし。（拍手）

ちょっと円になって丸くなってください。

いい時間になりました。3時になってしまいました。

すごく皆さんうまいですね。もしかしたら初めてやった方もいるかもしれませんが、全然そういうふうに見えてなくて、本当にこの桃太郎が現代にあったら、どのパターンでも全シーンできるというぐらいにすごく面白いシーンができたと思います。

皆さんが今やったことが、まさに演劇なんですよね。1人では浮かばない物語とか登場人物が、何人か集まったことによってみんなの意見を集約して、新しい物語が生まれて、自分がそこで必要な言葉をしゃべって、その人物を創っちゃったわけですよね、皆さん。さっきまで生まれていなかった人物がこれだけ生まれて、そしてもしかしたら、自分の回りの問題を桃太郎を通してお客さんに訴えることができるという経験を今されたんですよね。

本当にこの短い時間、このプロセスを使っただけで、えっ、演劇って何だろうと思う方々が、結構演劇にちゃんと足を踏み込める。演劇って中毒性があるので、これやったらもうちょっとちゃんとやってみたいな、ということになってくるかもしれないです。一人にいるよりかは何人かでやれると、「また会おうね、ここで」みたいなことにもつながってくると思います。しかも、これやったことがこの物語だけではなくて、ほかのプロジェクトに対しても通じると思うんです。同じような作り方でもみんなやればこんなことできるんじゃない？というように。どんどん可能性を広げられていくということが演劇にはあると思うんです、そういった力が。

本当に、今日皆さん一人一人の顔がはっきりと見えるんですよね。劇場という場所ではなくて、劇場にいる皆さん一人一人の顔が、集まってくる方に見えるということが非常に大事なことなのではないかなと思います。ぜひお一人お一人がもう一人ずつ、もう一人ずつと手をつないでコミュニケーションを広げてみていただけたらなというふうに思います。

何かご意見等いろいろとあると思いますが、アンケートなどご協力いただけたらなというふうに思います。呼んでいただければ、私、全国各地どこでも旅立ちますので。

○酒井氏 2人は交流会に参加するんだよね。

○河田氏 はい、情報交換会に出ます。

○酒井氏 だから、個人的に何かあったら、そちらのほうで、もし参加される方だったら話をしてください。

こんな会ですけれども、なにか参考になってくださればと思います。というか、これで何人か知り合いができたんじゃないでしょうかね。そういう意味でも、交流ということは必要だと思います。

どうも今日はお疲れさまでした。

何か質問はないですね。

それでは、どうもお疲れさまでした。

○河田氏 ありがとうございます。